

1. 評価結果概要表

【認知症対応型共同生活介護用】

作成日 平成 20 年 1 2 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	0770800464		
法人名	医療法人 佐原病院		
事業所名	医療法人佐原病院 グループホームひまわり		
所在地	〒966-0841 福島県喜多方市字さつきが丘101 (電話) 0241-23-3715		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年11月10日	評価確定日	平成20年12月12日

【情報提供票より】(平成20年9月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 19 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	13 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 13 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有() 円 ● 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	8 名	要介護 2	8 名		
要介護 3	2 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	67 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人佐原病院 あきら歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人運営の事業所であり、鉄骨2階建ての1階部分がデイサービスセンターで2階部分が2ユニットのグループホームである。住宅が密集しており学校もあり地域密着型サービス事業所としての立地条件に恵まれている。運営主体の病院が近く、定期的に医師と看護師が事業所を訪問し、利用者の身体状況を聞くなどしており、健康に配慮したケアが図られている。そのため、利用者は安心して生活していることがうかがわれる。また、事業所の駐車場を活用した芋煮会や花火大会などにも地域に呼びかけ交流を行ったり、近くの中学生の体験学習の受入れも実施している。運営推進会議では、グループホーム火災のDVDを上映し夜間や冬期間の火災等に対する地域住民の協力の必要性について理解を深めるなど、事業所運営に活かされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘された研修計画については、事業所として年間計画を策定し受講している。災害対策については消防署の協力による避難訓練実施や、毎日、夜勤者による夜間想定シミュレーションを実施している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価にかかわっており、取り組みの事実を具体的に記載し、サービスの質を高めるために活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議は定期的実施している。委員が主体的に会議運営にかかわり事業所の運営に協力的である。運営推進会議の重要性を認識していることから2ヶ月に1回の開催を実行することとしている。委員に対する委嘱状の交付が行なわれているので、会議設置要綱等を整備し、会議の位置づけを明確にすることが望ましい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月利用者の写真や利用者、介護者のコメントを載せ送付している。面会も頻繁にあり意見や要望を聞く機会を持っている。宿泊される家族もいる。事業所が管理している小額の金銭については、出納簿に記帳した原本と領収書を送付し確認を得ており、適正に管理している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し地域の清掃活動や町の行事へ参加し地域との連携に努めている。事業所行事の芋煮会や花火大会にも近所の人たちが参加したり、地元中学生の体験実習の受入れも行っていった。
重点項目④	

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念は、毎年見直しを行い地域密着型サービスの意義を職員全員で話し合い、地域で安心して生活出来るように、理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、毎日の申し送りや、毎月のカンファレンスの時に、管理者を中心にして共有し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	住宅地にあるため、事業所行事の芋煮会を地域の方々と一緒に行ったり、町内会に加入して、地域の清掃活動に参加し事業所の状況など知ってもらいながら交流を深めている。近くの中学生の体験実習の受入れも積極的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の重要性を理解し、自己評価については、職員全員で行い評価の意義を共有している。外部評価の結果については、全員に説明し改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員は、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター、行政区長、民生委員、隣組組長、利用者及び家族代表と多く、出席者から多くの意見が出されている。行事に合わせて行うなどして、委員から意見を頂き改善に努めている。		
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書の送付の際、利用者の写真、本人コメント、担当者コメントを載せ近況を伝えている。小額金銭出納帳も領収書添付のうえ報告し適正に管理している。健康状態は家族の来訪時に伝え、状況変化にはその都度電話にて報告する。広報誌については、3ヶ月に1回発行し家族に届けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して家族から意見を取り入れているが、家族の訪問時に話をする様に努めている。個別の希望にはその都度対応、運営推進会議でも希望、要望を出して頂き運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との馴染みの関係を維持することの重要性を十分認識している。法人内の異動は最小限とし、利用者に影響がないよう管理者が職員をバックアップしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所として研修計画を作成、外部研修には順番で参加し、報告会を行い職員全員に伝達している。また、参加費用は、法人で負担する。職員からの希望については、勤務体制を考慮し参加出来るよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム2施設の交流を行っている。また、市内のグループホーム10カ所で組織されている協議会に参加し定期的に勉強会を行い、お互いに情報交換や課題研修を行うなどしてサービスの質の向上に反映させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来ること(お掃除の手伝い、配膳などの手伝い)、得意とすること(米とぎ、野菜切り、味付け、料理の盛り付け)等、それぞれの分野で利用者と共に支え合い、学び合いながら、和やかに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式を活用し利用者の状態像を把握したり、日常生活の中から読み取り、また家族や知人からの情報を得るなどして思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個別具体的な計画作成に向け、利用者、家族の意向を取り入れながらケース会議の中で意見を出し合い作成している。しかし、援助目標に沿ったサービス内容の頻度と具体的にケアが実行されているかどうか記録上明確でなかった。	○	ケアプランの援助目標に沿ったサービス内容を実践することが重要である。そのため、ケアプランのサービスが実際に提供されているかどうか利用者が家族からも理解できるよう記録することが必要である。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しが行われており、ケアプランを評価するためにニーズ、対応、評価の項目を様式化し見直しの際の参考になっている。状態変化に応じての見直しも行われている。		見直しの際には、介護計画のサービス内容ごとのモニタリングを行うことにより、精度の高い評価が可能になると思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族によるかかりつけ医への通院介助を基本とし、その際には介護記録で家族に説明し、理解を得て受診支援をしている。また訪問看護ステーションの訪問診療を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算適用の事業所であることから、法人として重度化し看取りが必要になった場合の対応指針を作成している。また、入居の際の同意書により家族等の同意を得ている。職員も看取り方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報使用にかかる同意書により、個人情報保護に留意し、契約に基づく守秘義務を遵守している。利用者のプライドを尊重し言葉かけや羞恥心にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は自由に落ち着いて生活しており、希望にあわせ、またそれぞれの体調を見ながら買い物や散歩など柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前に深呼吸や口を動かすなどして、食欲を高めるなどの工夫をしている。静かに音楽を流し、落ちついた雰囲気の利用者と職員と一緒に食事を楽しんでいる。また、調理、配膳、下膳なども利用者と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、朝から入浴ができるようにしてあり、利用者の希望にあわせ入浴している。また、あまり入浴を好まない方には、足を洗いながら、さり気なく入浴するように仕向けたり、着替えをしながら誘導するなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	調理、配膳、下膳、清掃、裁縫等を行うなど、得意分野や趣味等を把握し支援している。レクリエーションや遊び等気晴らしの場作りをしている。また、若い職員は、歴史について教えていただくなどし、感謝の意を表している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩や日常の買い物など、できるだけ外出する機会を持つようにしている。家族の協力を得ながら希望に沿って温泉や美術館等への外出もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	静かに落ち着いて過ごしており、日中は鍵をかけていない。チャイムにより出入りが感知でき、ユニットごとにチャイムの音が異なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いのもとに定期的に避難訓練を行っている。消防計画を作成し、夜勤者は毎日、火災を想定した初期消火、通報、避難誘導など一連の流れをシミュレーションし、体で覚えるようにしている。備蓄も整備してある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者全員の生活チェック表により食事や水分の摂取量を把握している。排便チェックもなされており、職員も情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースも居室も清潔であり、明るく居心地の良い環境である。ご飯の炊ける匂いなど日常的な生活の匂いや季節感のある飾りなどを意識的に取り入れ、家庭的な雰囲気を作成している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれ利用者の好みや使い慣れた馴染みの物が置かれ居心地よい場所となっている。配偶者の遺影に食事を供えるなど利用者の思いが居室の中から感じられる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 医療法人佐原病院
グループホーム ひまわり
記入担当者名 伊藤 優子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。